

各位

2024年4月5日
サンヨーホームズ株式会社
〒550-0005 大阪市西区西本町1丁目4番1号
www.sanyohomes.co.jp

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 9年連続受賞 「特別優秀賞」「省エネ住宅特別優良企業賞」に加え 「秋元賞(審査員賞)」とあわせトリプル受賞！

このたび、一般財団法人日本地域開発センターが主催する優れた省エネルギー住宅を表彰する制度「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2023」において、戸建住宅商品「life style KURASI' TE (LCCM住宅水準モデル※1)」が「特別優秀賞」を受賞、企業表彰として「省エネ住宅特別優良企業賞」を受賞、それに加え「秋元賞(審査員賞)」を受賞し、あわせてトリプル受賞となりました。

今回評価された3つポイントは、

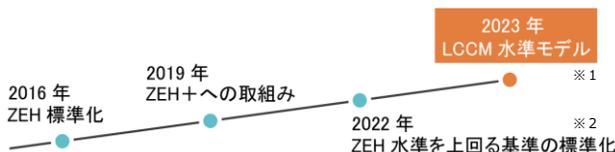
- ①当社がこれまで軽量鉄骨プレハブ住宅メーカーとして先駆けて、2016年にZEHを標準化し、2019年に上位性能であるZEH+（ゼッチプラス）に取り組み、2022年にはZEH水準を上回る基準※2の標準化を行い、政府が目指す2050年脱炭素社会の実現に向けた施策を前倒しで実現していること
- ②今回さらに進化させた「LCCM住宅水準モデル」として、製造・輸送や建設段階のアップフロントカーボン削減に取り組んでいること
- ③サーキュラーエコノミーに資する「スクラップ&ビルド」から「ストック活用型」の提案として、「災害時の安全性」(地震や災害)、「暮らし提案」(大空間や可変性)を行っていること

これらの取り組みが4年連続の「省エネ住宅特別優良企業賞」、「審査員賞」に繋がったと考えております。

今後もECO&SAFETYという企業姿勢のもと、国際的な枠組みである2050年ライフサイクル全体でのカーボンニュートラルに向けた対策に積極的に取り組んでまいります。



当社におけるこれまでの脱炭素社会の実現に向けた住宅への取り組み



住まいづくり3つのポイントの1つ、環境性能（ECO）をさらに強化、トータルでお客様をサポート

サンヨーホームズが取り組む
2050年脱炭素社会の実現に向けた住まい



※1 LCCM（エルシーシーエム：ライフ・サイクル・カーボン・マイナス）住宅とは、建設時、運用時、廃棄時において出来るだけ省CO₂に取り組み、さらに太陽光発電などを利用した再生可能エネルギーの創出により、住宅建設時のCO₂排出量も含めライフサイクルを通じてのCO₂の収支をマイナスにする住宅。LCCM住宅水準モデルとは、LCCM認定水準を満たす住宅として当社が呼称したものであり、流通や呼称等で第三者にLCCM住宅として提供する場合には、別途、一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター（IBECs）によるLCCM住宅認定を受ける必要があります。

※2 2022年4月よりZEH水準を上回る基準を新築戸建住宅において標準化（現行の品確法断熱等級6（UA値0.46以下）ならびに一次エネルギー等級5（再エネ除く30%以上削減））

<リリース内容に関するお問い合わせ先>

サンヨーホームズ株式会社 新規開発部 06-7670-3412（窓口：細井）

life style KURASI'TE (LCCM住宅水準モデル) の特長 ※1

2050年の脱炭素社会実現に向けて国が目指す住宅水準を早期に実現（実績ベース）



高い断熱性能と電気を自給自足できる設備

快適性

北海道並みの断熱性能

■ 省エネ基準の地域区分と断熱性能の基準値



経済性

ZEH水準の約1.5倍の省エネ効果

■ 太陽光を除く一次エネルギー消費量の比較



環境性能

電気は自ら創って使う

大容量太陽光発電の搭載で光熱費など家計への負担軽減や停電時の予備電源に

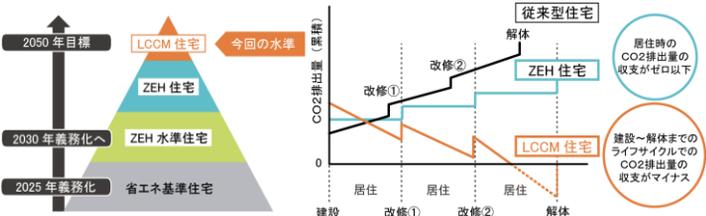


環境性能

未来を育む環境貢献

【政府が推進する低炭素に向けた住宅イメージ】

【運用年数によるCO2排出量の違いイメージ】



自然災害に備えられる安心の鉄骨構造

強靱な構造体

地震の揺れに強く
柱のない大空間が可能



大空間リビングで思いのままに暮らしをデザイン

自由度の高さ

家族がのびのびと過ごせるワイドリビングが可能



■ さらに、安心・安全な住まいのために、トータルでご提案

レジリエンス(防災力)

災害時の停電に備えた電力をバックアップ（太陽光発電+蓄電池、V2H (Vehicle to Home) など）

「年単価」発想 ※2

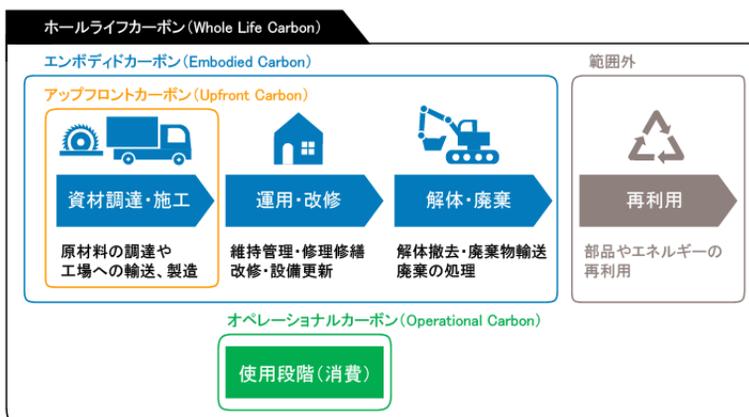
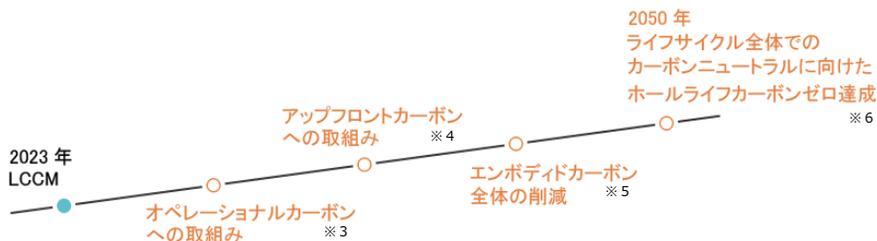
建てた後の維持費をしっかり抑える（高耐久な外壁材など）

環境・健康への配慮

人にも環境にもやさしい（空気や温度の対策など）

今後の取り組みと対策

今後の取り組みとしては、LCCM住宅認定や普及に留まらず、国際的な枠組みである2050年ライフサイクル全体でのカーボンニュートラルに向けた対策として、設備機器の開発や見直しによる運用時のオペレーショナルカーボン※3の削減、資材調達から製造・輸送・建設段階におけるアップフロントカーボン※4や運用・改修・解体時を含めたエンボディドカーボン※5の削減、これらに部品やエネルギーの再利用も含めた全体のホールライフカーボン※6対策に向けても積極的に取り組んでまいります。



引用元：国土省「ゼロカーボンビル推進会議：建築物のライフサイクルカーボンの内訳」を元に当社作成

その他普及活動

また、普及に向けた環境行動変容を起こす取り組みとして、省庁連携の取り組みへの参画や、環境性能の高い住宅の購入者等にポイント還元する「グリーンライフポイント」制度を自社で設けるなど、環境への行動変容を起こす施策を推進しております。当社はこれからも、事業コンセプトである「ECO&SAFETY」のもと、環境にも家計にもやさしい住まいの実現に取り組む、高品質高性能な住宅ストックの形成に貢献してまいります。

環境省が推進する
新しい国民運動「デコ活」への参画
<https://ondankataisaku.env.go.jp/dekokatsu/>



サンヨーホームズのグリーンライフポイント
<https://www.sanyohomes.co.jp/event/glp/>



※1 LCCM (エルシーシーエム：ライフ・サイクル・カーボン・マイナス) 住宅とは、建設時、運用時、廃棄時において出来るだけ省CO₂に取り組み、さらに太陽光発電などを利用した再生可能エネルギーの創出により、住宅建設時のCO₂排出量も含めライフサイクルを通じてのCO₂の収支をマイナスにする住宅。LCCM住宅水準モデルとは、LCCM認定水準を満たす住宅として当社が呼称したものであり、流通や呼称等で第三者にLCCM住宅として提供する場合には、別途、一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター (IBECs) によるLCCM住宅認定を受ける必要があります。

※2 年単価とは、建築費などの初期費用、光熱費、メンテナンス費を住む年数で割った金額

※3 アップフロントカーボン (Upfront Carbon) とは、資材調達や輸送・建設段階で排出されるCO₂排出量

※4 オペレーショナルカーボン (Operational Carbon) とは、運用段階の設備によるエネルギー消費で排出されるCO₂排出量

※5 エンボディドカーボン (Embodied Carbon) とは、運用段階の設備によるエネルギー消費を除く、資材調達から運用、解体・廃棄段階での排出されるCO₂排出量

※6 ホールライフカーボン (Whole Life Carbon) とは、資材調達から運用、解体・廃棄段階までの全てのCO₂排出量を含むもの